

# 新年のご挨拶



二松学舎大学

# 父母会報

平成5年5月10日創刊  
令和3年1月20日発行  
(第111号)

二松学舎大学父母会  
(本部・事務局)

東京都千代田区三番町6番地16  
二松学舎大学学生支援課

題字は  
故 観山貞広常吉先生書



父母会長  
**細谷 文雄**



二〇二一年の年頭にあたり、新年のご挨拶を申し上げますと共に、会員皆さま方のご健康とご多幸をお祈りいたします。昨年は新型コロナウイルス感染症拡大が猛威を振るいました。被害となられた方々に心からお見舞いを申し上げます。

さて、これまでの父母会活動ですが様々な活動制限があり、四月の新生歓送式典への協力をはじめ、五月の定期総会中止、六月、七月の地区別父母懇談会では本来、各地区に学長をはじめ教職員の皆さまをお招きし、大学の現状や教育方針、学生生活、就職状況等の意見交換の場でしたがすべての会場にて中止となりました。その後の活動についても大学側との調整で十一月の創緑祭への協力、父母会主催の卒業パーティーも中止となり父母会活動が停滞中で

ですが、コロナウイルスが終息後より良い活動が出来るよう役員一同模索をしているところです。また、学生たちも新しい生活様式のなかでの日常生活やオンラインによる授業等々、慣れない生活を強いられる事と思えます。中には、毎年実家へ帰省していたけど、おじいちゃん、おばあちゃんに会いたくないけど体が心配だからとお正月に帰らない事にした学生もいたと思えます。感染防止対策を優先しながら迎える新年はこれまでとは違い、相手への思いやりや人とのつながりの大切さを目を向けるきっかけになった方も多くは、思えます。その中で、大学側の学生支援の一環として、特別給付金制度、感染拡大予防対策等の早急の対応に感謝申し上げます。

今年の干支は丑年です。丑年はまさに粘り強さや堅実さを表すと云われています。焦ることなく、一歩一歩確実に学業をこなしていきたいと思います。

正直なところ、おめでとくと言えるような気分ではない方も多いかと思えますが、一日も早い感染症の終息を願い、明るい一年となりますようお祈り申し上げます。

結びとなりますが、私たち役員一同、大学と学生のパイプ役と活動してまいりますので引き続き会員の皆さま方には、深いご理解ご協力をお願い申し上げます。

父母会の皆様、その他本学関係者の皆様に謹んで新年のご挨拶を申し上げます。日ごろから大変お世話になっております。二松学舎は一四四年目の年を歩み始めました。

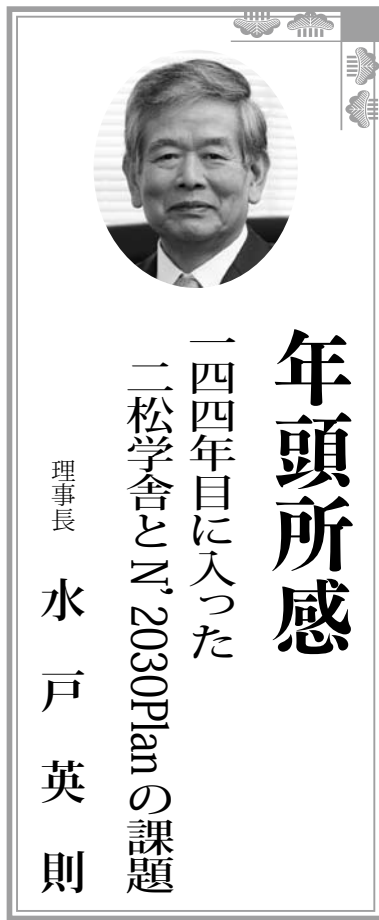
昨年から続くコロナ禍は引き続き、猛威を振っています。有効なワクチンや治療薬、治療手順等が確立していき、まさに時代が芽吹いていくように、徐々に制圧され、我々の普段の生活が戻ってくるものと確信しております。

こうした中、昨年は、教職員の皆様、オンライン授業や対面授業、これら授業への諸準備や新生活へのキャンパス案内等、初めて直面する様々な仕事に挑戦し、数々の困難を乗り越えて来られたことを、感謝する次第です。また本学に通学する学生の皆さまやその保護者の方々にも、様々なご迷惑をかけたことを心苦しく思っており、学校法人と致しまして、学生の生活支援のための給付金・奨学金の支給や家庭内インターネット通信環境の整備資金の支給等数々の支援措置を採らせていただきました。

さて本学の長期ビジョン「2030 Plan」も今年で四年目に入りました。この長期ビジョンでは建学の精神に基づいた育成する人材像を、時代の先行き、AI等ニューテクノロジーによる経済・社会構造の大変革や多様性を展望し、「日本に根差した道徳・心をもとに、良質の知識と英語・中国語等語学力を身につけて、我が国の歴史と文化を理解して、かかる知識を背景として、よりよき社会を実現

する目標を持つてグローバルに活動するたくましい人材」としています。この人材育成実現のため、「二〇三〇年教育体制」の構築という目標の下、大学をはじめとするカリキュラム改革を、進めております。

この間、昨年の業績を簡単に振り返りますと、教育研究面においては、二〇二二年度から導入予定の新カリキュラムの検討が進んでおり、数理データサイエンスを含む教養科目を両学部部の初年次教育で実施する方向でその概要が纏ま



# 年頭所感

## 一四四年目に入った 二松学舎大学 N'2030Plan の課題

理事長 水戸英則

定、状況等を勘案しながら適切に対応できるような措置を講じました。施設設備整備については、九段各校舎の定例メンテナンスの実施、国際交流センターの移転拡充を行うなどの環境整備を行ったところです。また、新型コロナウイルス感染症対策として、遠隔授業のインフラ対応と各種会議のWeb化のほか、体温センサー、飛沫防止パーテーション、換気設備、消毒液の設置などを実施したところです。

次に新年度二〇二二年度では、「N'

2030 Plan」のアクションプランも四年目に入ります。主要事業計画は、一昨年講じた、学部の入学生員引き上げ措置（文学部は四四〇名、国際政治経済学部は二四〇名、両学部合計六八〇名、一学年計八〇名の増加）に伴い、二〇二二（令和三）年度まで年次進行で収容定員が増加となり在籍ベースでは二六四〇名と二四〇名の増加となります。また文学部では、社会歴史系学科の新設を検討中であり、四学科体制を目指しています。更に、二〇二二年度導入予定の新カリキ

ュラムに向けた諸準備を行うほか、ICT教育環境の拡充として学生一人一台PC体制を年次進行で開始いたします。加えてWithコロナ時代の学生支援、就職支援の拡充・強化を図る必要があり、大学の使命の一つとして、産業界・地域社会等との連携強化を図って参ります。法人部門では、適切なガバナンスの充実・強化策として、本学独自のガバナンスコードの策定・公表を行い、重要な使命である財務の安定的な管理・運営、将来の教育環境整備や奨学金基金の一部として活用するための恒常的な寄付金募集体制を強化して参ります。

また、収入の維持・強化に向けて、補助金については、学内関係部署で私立大学等改革総合支援事業の制度の課題共有を通じて、遺漏なき獲得を図っていくこと、資金運用については、規程に基づきリスク管理を徹底し慎重な運用を行っていくほか、法人財務格付や自己点検評価の実施等により各種改善を図ると共に、長期ビジョンの最終目的である本学のブランド力の向上及び志願者・入学者の増加・安定に結び付けて行きたいと考えております。

以上、新年度の課題、話題をお話ししました。本年も教職員の皆様は、各部署でそれぞれ、精励して頂きたくお願い申し上げます。また、父母会、卒業生や関連するステークホルダーの皆様に対しましても、引き続きご支援・ご協力をお願いして、新年のご挨拶いたします。

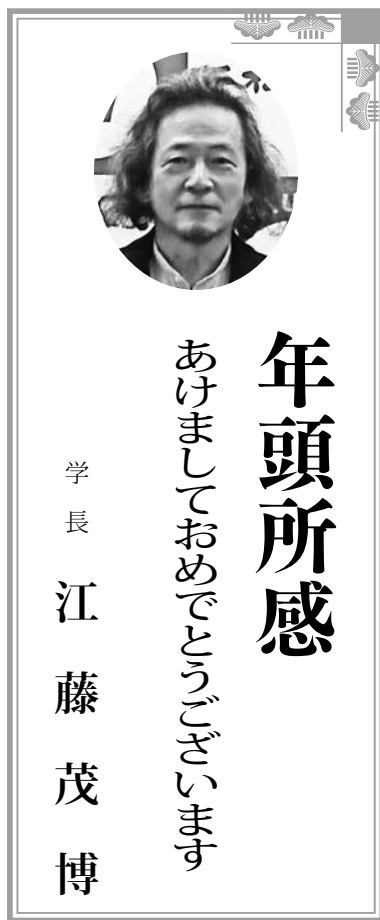
一年が終わる、師走の頃、さて今年は何を成し遂げることができたのか、私自身も振り返ることになる。もちろん、大学の仕事を成し遂げるには、自分ひとりの力でやれるわけがない。組織が一体となって、進むべき方向に向かうのである。そして、この進むべき方向については、ただ大きな原則があるだけだ。ひとつは、研究機関として、最新の知の成果を学生に与えること、もうひとつは、教育機関として、学生が知の成果を受け取ることができるときのよりよい環境を形成することだ。もちろん、これらふたつの原則に付随することはたくさんあるのだが、ふたつの原則そのものは変わりようがない。この原則の下に、大学は絶えず変化していくのである。

時間の流れと共に、すべてが変化し続けるのは、当然のことである。全てのひとはやがて入れ替わり、多くのモノは形を変えていく。当然ながら学問研究の成果も常に新たな答えが求められている。いつまでもそのままの姿であるならば、その存在そのものが問いなおされることになるだろう。変わらないものばかりが見えるのは、ただ変わらないものを求める凡庸な目ではない。この凡庸な目とは、変わりたくない自分だけしか見えない目でもある。

もちろん大学もまた、変化しなければただ死滅を待つばかりである。

たとえ個々の大学組織に優劣はあったとしても、それでも新しい年には、それにふさわしい新しく変化した大学の姿が求められるのだ。新しい学生たちが、新入生として春に入學してくるからだ。

古典籍を擁する漢学塾から出発した二松学舎大学は、変わらぬ注釈を大事にしているわけではない。古典をさらに新しく読み直そうと私共は研究し続けているのである。そして、その成果を伝えたいと思う。そ



## 年頭所感

あけましておめでとうございます

学長 江藤 茂博

れが研究教育機関としての自負である。

こう書きながらも、では自分自身はより良く変わったのだろうか、とも思う。こればかりは、自信があるわけではない。ただ、少しでも大学を良くすることができたならば、私自身も良い方向に向かっていることにもなるのだろうか。いわば、他力な存在証明であるかもしれない。そうであっても、個人としては無力な私は、ただひたすら大学を少しでも

良くしたいと願い、努力するのみである。

たとえば『論語』学而には、曾子の言葉として、「吾日三省吾身。為人謀而不忠乎。與朋友交而不信乎。傳不習乎。」と記されている。三省堂書店の由来ともなった「吾日に吾身を三省す」である。ここで曾子は、一日に幾度も自分自身の行為を省みたというのである。曰く、ひとのために真心を尽くしたか、友人と誠実に交流したか、習得していない

として、先の「三省」は続けたいと思う。ここでの省みるというのは、反省という意味よりは、チェックするというようなニュアンスではないだろうか。

新しい年には、それに相応しい「三省」があり、日々のなかにも各自役割に応じた「三省」がある。繰り返しになるが、大学は日々新しく、より良い教育研究機関に変化しなければならぬことだけは、確かなことである。昨年より、新型コロナウイルス感染症拡大のなかで、大学の教育環境がさまざまな制限が生じることになった。それでも、二松学舎大学は、教育体制への「三省」として、大学組織の機能チェックを繰り返しながらの一年間であった。感染拡大のなか学生の安全を確保したい、教育機関としては少しでも大学を開いていきたい、というジレンマのなかでの一年と言い換えてもよい。それにしても、学生たちにはよく我慢してもらえたと思う。

この父母会からの依頼文は例年通りではあるが、教員職員学生が一緒になってこの新しい年を迎えることができた喜びと、さらに良い大学にするための努力を私共は怠っていないことへの自負とを、この新年の喜びの言葉に重ねたいと思う。

# 『本学の教育について』の報告』

副学長・国際政治経済学部長

中山 政 義

謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。また、日頃より本学の教育研究活動へのご理解とご支援をいただきまして、心より御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症が世界的な広がりを示す中で、我が国でも感染の急速な拡大が続いています。

このような状況の中、御父母の皆様には本学の教育活動の実施につきまして、ご心配をおかけしております。

本学では昨年三月に、学長を中心とするコロナ対策会議を設置し、感染拡大防止策を講じてまいりました。安全を保つことと、大学を正常に近い状態で動かしていくことは、相反する要素が多く、日々の状況を見極めながら優先順位を設定することで、可能な限りの両立を目指しております。

また、四月には授業への対応として、「二〇二〇年度の授業科目に係るオンライン型授業の導入について」という指示を全教員に伝え、学生の学修機会を確保する対策を講じ

ました。新型コロナウイルスの感染への対応が長期間に及べば、オンライン型授業の実施は必須となります。非対面方式には限界がありますが、利点もございます。以前の体制に拘ることなく、今回の新型コロナウイルス禍から学んだことを、新たな教育体制の構築に生かすべきと考えます。

現在、そして今後の授業の運営等につきましては、昨年七月に策定した「活動基準表」に従って行動いたします。「活動基準表」は五段階の評価で、その対象を、授業、研究活動、事務業務、学生入構数、会議開催、課外活動の六項目に分類し、項目ごとに柔軟に対応できる仕組みを採用していることに特徴があり、新型コロナウイルス禍においてもゼミナールや情報の授業を実施するなど教育の質を担保しながら、学生の心のケアに配慮した取組も実施してきました。

コロナ感染者数の動向などを注視しながら、慎重に段階を決定していますが、昨年一〇月五日からは、そ

れまでのオンライン中心の第三段階から第二段階へと移行し、授業と会議は対面を基本といたしました。第二段階最初の週の調査では、対面授業にきている学生数は約五〇〇人と少数でしたが、三密への対応を徹底することで、多くの学生が集中する危険を回避することができました。今後も、安全な受け入れ態勢を維持しながら、徐々に対面授業へ参加する学生を増やしてまいります。

なお、対面で授業を実施する際にも、遠隔での受講ができるようにして、いずれの場合においても不利益が生じないように配慮をいたします。授業の実施にあたり、対面学生とオンライン学生の両者への対応を行うことは効率的な授業形態ではありませんが、現在の社会情勢下では、併用型が最も妥当であると判断いたしました。

オンライン授業実施においては、通信機器やインターネット環境の整備が間に合わない学生に、パソコンやモバイルルーターの無償貸与をしております。また、学内の感染症予防対策を講じた上で、キャンパス内で遠隔授業の受講や必要な資料・レポートの印刷ができるよう学修環境の整備に努め、コロナ禍でも学修の質の担保と機会の保障に取り組んでいます。

一方、学生からオンライン授業における課題の多さを指摘する声もあ

ります。教員間における適切な課題量への合意ができていないことも一因と考えられますが、学生が主体的に受講し、課題に臨む姿勢が定着しつつある様子も見られます。授業時間の二倍の時間を自宅学習にあてるという自覚を学生が持つようになれば、教育の質を高める好機となります。教員によるオンライン授業の充実のためのFD活動も実施しており、多様な手法・技法を用いた授業スタイルの研修を行うことで、学生の主体的な学びを喚起し、大学はそれに対応できるオンライン授業環境の整備を進めています。

学修以外では、キャリアセンター・就職支援課が、コロナ禍においても、学生の目指す進路が実現できるように、今まで以上に、一人ひとりの学生に寄り添い、親身な就職支援に取り組んでおりますし、教員も加わり教職協働でサポートを実施しています。

御父母の皆様には、コロナ禍で御子息・御息女の教育や生活において、様々な不安を抱えていらっしゃるかと存じますが、本学は安全への配慮を第一としながら、最大限の努力で教育の質を担保したいと考えております。また、事態の進展を注視しながら、迅速に対策をとってまいります。何卒ご理解・ご協力を賜りたく、お願い申し上げます。

## 『届けたいもの、そして届けるどうしよう。』

文学部長

牧角悦子

千鳥ヶ淵の桜が固いつぼみを開く

ころ、音もなく訪れた疫病の混乱が世界を駆け巡りました。この間、新しく整備された九段坂公園沿いを通いながら、新学期の授業をどうやって学生に届けようかと模索の日々が続きました。幸いにも国立情報学研究所のオンラインサービスの提供を受けることができ、五月からはほぼ全ての授業をオンラインで始めることができました。現在では、様々な工夫をしながら一部の授業は対面を開き、感染防止を徹底しつつ、可能な限り希望者には大学で授業が受けられる体制を回復しています。

大学教育は、研究に支えられた上質の智慧とスキルを次の世代に伝えるものだと思っています。そのため我々教員は、まず学問分野においてプロであること、それを教育の場に生かしていくことを求められます。その意味で、コロナ禍の中で、

研究は出来ても、それを伝える術が途絶えることに、我々教員はまず大きな危機感を持ちました。特に文学部の学びは、書物や古典を囲みつつ、場を共有するなかで培われる、

双方向的教育が特徴でしたから、「場」を共有する機会を殺がれることには大きな不安がありました。ただ、学生も教員も、皆が一斉に取り組んだオンラインという方法は、もちろんこれまでの通常の対面授業に比べて不自由ではありませんが、しかし教える側にも受ける側にも、予想外のメリットがありました。教員は、綿密な授業計画と丁寧な資料提示を心がけることで、授業の質の向上に努めました。また学生は、自己責任において授業に向き合うことを突然求められたが故に、学ぶことの意味を切実に受け止めてくれた気がします。オンライン授業という新しい方法に、それぞれ巧拙はありなが

らも何とか対応することが出来たと

思っています。ただ、互いの真摯さが裏目に出て、課題が多すぎたことや、また新人生にとってはパソコンでレポートを書くことそのものに慣れていないことに対して配慮が足りなかつたことなど、学生アンケートから見えた多くの問題と批判には、精一杯応えてきました。そのような中で見えてきた、一つの大きな問いを、次にお話したいと思います。

それは、朝早く起きて電車賃を払って大学に行くよりは、オンラインで聞けるのならオンライン授業で十分だ、という学生に対して、教員はどのような答えが出来るのか、という問いでした。それは、大学で学ぶことの意味そのものを突き付ける難問だったのです。私は自分自身に問いました。自分の授業は、学生が朝早く起きて電車賃を払って、そしてこの場で聞きたいと思うような「学問」を内在しているか、と。こたえは、「可」。成績評価でいえば、「C」でしょうか。もちろんこれは自負と謙遜を込めた「可」ですが、しかし同時に「可」は、そうある「可し(べし)」と自分を戒めるものでもあり、またそうあろうという新たな覚

悟を生むものでもありました。

我々教員には伝えたいもの、届けたいものがあります。それは知識でありスキルであると同時に、長い時間を生き延びた人文学の智慧です。教場が叶わないのであれば、電波を借りて、しかし可能であれば出来るだけ元の通りこの「教室」で、知的空間を共有しながら生きた智慧を実感し修得すること、それが大学で学ぶことの最も重要な意味であり、我々教員が学生に届けたいものでもあるのです。

この一年、尋常ならざる事態に直面して、我々は確かに不便と不自由を強いられました。しかし反対に、大学の本来、教育の本来、そして学問の本来に大きく気づく契機がもたらされたこともまた事実です。非常事態に対応できるものこそ真の智慧であり、高等教育とはそのような叡智を教授する機関なのだということ、方法の如何を問わず、大学人の矜持として学生に届けたいと思っているのです。

# 新入生歓迎式典開催

二〇二〇年十一月一日(日)・二日(月)の二日間にわたり、オンライン形式で新入生歓迎式典が開催されました。この日は、毎年父母会も無料で休憩できる喫茶室として参加している創縁祭が行われる日でしたが、残念ながら新型コロナウイルス感染症拡大防止のために中止となってしまいました。

そこで、学園祭実行委員会の皆さんが、新入生のために何か企画をとうことで、四月に中止となってしまったいた新入生歓迎式典を、二〇二〇年度オンライン新入生歓迎式典として開催しました。

内容としては、クラブ・サークル四〇団体が新入生に向けて一〇分程度オンライン説明会を行うもので、各団体は、入部するきっかけを作ってもらおうと熱心に発表を行っていました。

少ない準備期間や、初めてのイベントにもかかわらず、二日間で三六七名の参加があり、新入生の課外活動団体への入部のきっかけとなつたようです。

新入生からの個別質問を受付けられなかったり、改善点はあるものの、サーバードアウンなどの不具合やトラブル無く、実施することができました。



## アー リタリ 61 ヤンよ キセだ

### ●就職活動そのものに主体的な行動が求められます

新型コロナウイルスにより変化している就職活動については前号で述べましたが、情報の取得にも変化が出ています。視覚・聴覚による環境情報です。

具体的には、いわゆる口コミによる情報の授受が減っていることです。大学に来ていれば友人との何気ない会話の中で就職活動について話題になったり、キャリアセンターが実施するガイダンスや講座に友人が参加するの自分もついていたりなど。

また就職活動に備えて髪を切ったり黒く染めたりする友人や、学食や授業でスーツ姿になっている上級生や同級生などを見るなど。

そのような、視覚や聴覚から得る刺激や情報がないため、就職活動を意識したり情報を得たりすることがなくなつてしまったのです。

結果として、自分から就職活動を意識できる人と、そうでない人との差が大きく開いています。就職活動そのものへの主体性や積極性が問われるようになってきているのです。

### ●キャリアセンターが提供する情報や講座

キャリアセンターでは、そういった情報の補完としてということではないですが、三年生向けに毎週水曜日にキャリアメールマガジン『キャリアマガ』を配信しています。有象無象の就職情報のウェブサイトがある中、信用できる情報として、また時節を捉えたタイムリーなネタとして、提供しています。また就職活動本番に向けてしっかりと準備を整えられるよう、各種対策講座を実施しております。授業と重ならない日時で設定して多くの学生が参加できるように配慮しております。

●ご父母からも背中を押してください  
それらの講座やイベントの参加も、学生の主体性に委ねられます。就職活動を行なうのは、もう成人したご子女ではあります。このコロナ下の状況で先に述べましたとおりの外的刺激が減っておりますので、ひと言で構いませんで、大学の講座やイベントへの参加を促していただければ幸いです。

●学生の個別相談にも  
専門職のカウンセラーが対応します  
キャリアカウンセリングの有資格者が、相談枠を設けて学生の相談をお待ちしています。導入している求人票検索システムを使って相談枠の予約ができます。ただこのコロナ下で学生どうしの情報交換が減り、「相談しようにも何を相談してよいかすらわからない」という状態の学生が増えてきます。そんな学生こそキャリアカウンセラーと

まずは話して欲しいです。話す機会が減っている今だからこそ、話すことで行動の糸口に繋がる場合があります。

●コロナ時代の就職活動こそ『チーム二松学舎』で  
孤立してしまいがちな状況だからこそ、支えが必要で重要です。キャリアセンターでは、オンラインであっても対面以上の支援ができるよう工夫を凝らしています。学生どうしの繋がりの方も模索していきます。学生とキャリアセンターとご父母と、一丸となつて、この状況を打破できればと思っています。

今こそ『チーム二松学舎』として、タッグを組んで乗り越えていきましょう。



オンライン面談の様子

新年あけましておめでとうござ  
います。昨年は、コロナ禍で新し  
い生活様式を余儀なくされた非常  
に苦しい年になりました。学生の  
皆さんは、イレギュラーな学生生  
活をよく踏ん張ったと思います。  
このいつまで続くか分からない不  
安の中で踏ん張り耐えた力は、ネ  
ガティブ・ケイパビリティと言え  
ると思います。

ちは先がわからないことに耐え難  
く、答えを導き出した生き物の  
ようです。しかし、人生で出会う  
様々な問題は、すぐ答えの出るこ  
とばかりではあません。時には、  
答えが出ずとも長期的に向き合い  
抱えていかなければならないこと  
もあります。

大学生の時期は、自分が何者か  
という問いに向き合

## 学生相談室

だより



カウンセラー 油谷理歌

ネガティブ・ケイ  
パビリティとは、「す  
ぐには答えの出ない、  
どうにも対処しよ  
うのない事態に耐える  
能力」のことです。  
イギリスの詩人キ  
ツが作った言葉で、  
日本では精神科医の  
帚木蓬生先生が書籍  
化したことで注目さ  
れました。問題解決  
する能力であるポジ  
ティブ・ケイパビリティに対し  
て、問題を解決しないで抱えてお  
く力とも言われています。昨年は  
まさに、問題を抱える力であるネ  
ガティブ・ケイパビリティが必要  
とされた年だったと思います。  
現代社会では、効率的に処理  
する力や、合理的に問題を解決す  
る力が求められてきました。私た

とはありません。学生さんのネガ  
ティブ・ケイパビリティを引き出  
し、一緒に迷ったり悩んだりしな  
がら、自己の成熟に寄り添ってい  
きます。  
学生相談室は、感染予防対策を  
とりながら随時相談を受け付けて  
います。気軽に質問合わせくださ  
い。

## 大学の講義を受講してみませんか

二松学舎大学には、科目等履修生  
制度があり、大学の授業を広く一般  
の皆様に関与していただけます。科目等履  
修生制度とは、大学で開講している  
授業科目(一、数科目)を学生と一  
緒に受講し単位も取得できる制度で  
す。  
本学学生のご父母の皆様には、生涯  
教育の一環として一人でも多く大学  
の授業を受けて頂きたいとの趣旨か  
ら、登録料の免除、科目等履修料の  
減額措置を講じております。この機  
会に、是非お子さんと一緒に大学の  
授業を受けられることをお勧め致し  
ます。  
内容は、次のとおりです。

## 今年度の卒業パーティーについて

父母会では、例年、卒業生  
の皆さんのご卒業を祝し、ま  
た、在学中お世話になった教  
職員の皆様への感謝の気持ち  
を込めて、卒業パーティーを  
開催しております。昨年は、  
年明けからの新型コロナウイルス  
の感染拡大を受け急遽中  
止とさせていただきます。  
今年度につきましても、役員  
会で、実施に向けて開催方法  
について様々な検討を行って  
来ましたが、大人数の集まる  
立食形式のパーティーは難し  
いと判断し、昨年度に引き続  
き、父母会主催によるホテル  
グランドパレスでの卒業パー  
ティーは誠に不本意ではござ  
いますが、開催を見合わせる  
こととなりました。  
卒業生、卒業生のご父母の  
皆様には、大変申し訳ござい  
ませんが、ご理解いただきま  
すよう、よろしくお願い申し  
上げます。  
代替措置として父母会より  
記念品を贈呈する予定です。

### ■公開科目

学部・大学院で開講している授業  
科目のうち、原則として演習科目を  
除く授業科目を公開いたします。

### ■募集要項

二〇二一年度の募集についてのお  
問い合わせは、二月になりましてか  
らお願いいたします。

### ■科目等履修料

一科目 通年科目 三万円  
半期科目 一万五千元

### ■問合せ先

二松学舎大学教務課  
〇三(三二六一)七四〇六

## 卒業アルバム個人写真の提出のお願い

卒業アルバムは父母会より全卒業生に贈呈しています。卒業アルバム用の個人写真を昨年12月と本年1月に大学で撮影しておりましたが、来校できず撮影が出来なかった方は、下記の要領で学生支援課へご提出いただきますようお願い致します。再度、ご家庭で学生本人にご確認ください。

### □個人写真をデータで提出する場合の注意点

■スマホやデジカメなど撮影に使用する機種種の「最大データ(撮影)サイズ」で撮影/保存してください(データ形式は必ずjpgにて)

※iPhoneで撮影する場合は、設定アプリで「カメラ」→「フォーマット」→「互換性優先」を選択してください。

■スナップ写真や集合写真などからの抜粋加工は承ることができませんのでご留意ください

■背景は無地の明るい部屋で。「証明写真」のような仕上がりをイメージに、必ず頭上に隙間をあげ、上半身は両肩、胸部辺りまで入れてください

■お送り頂く画像データサイズはメール添付の共用範囲内で大きめで(目安データサイズ 1~3メガバイト程度)

※ただしこれより大きすぎるとメール送受信できませんのでご注意ください

■写真データは全体のバランスの中で補正していきますので、提出時は無加工のデータにてお願いします

■メールの件名は、「卒アル個人写真」を頭に付けて、学生番号・氏名を必ず記載してください。

例:「卒アル個人写真217A0000二松花子」

データ提出先: [sotsuaru@nishogakusha-u.ac.jp](mailto:sotsuaru@nishogakusha-u.ac.jp)

### □証明写真を郵送で提出する場合の注意点

■写真サイズ タテ5センチ×ヨコ4センチ  
(右記の例を参考にしてください)

※写真の裏面に必ず学生番号・氏名を記入してください。

郵送先: 102-8336 東京都千代田区三番町6-16

二松学舎大学学生支援課

卒業アルバム係

提出締切日: 2021年2月9日(火) 必着

(データ・郵送共通)

ご提出いただけない場合は、学生氏名のみ掲載となりますことをご了承ください。



頭の上に空き+左右は両肩が入りきればベスト。  
さらに下は胸まで写ったもの

新年明けましておめでとうござい  
ます。  
昨年は卒業式・卒業パーティの  
中止から始まった、学校でのコロ  
ナウイルスの影響は、新年度にな  
り休講、オンラインでの授業開始  
に始まり色々なイベント中止な  
ど、今までに経験のないこと尽く  
しでした。学生たちも慣れない内  
は戸惑いもありましたが今までは  
違う新しい生活スタイルでの学  
生生活にも慣れてきているよう  
です。御父母の皆様、ご安心くださ  
い。  
今まで当たり前前に出来ていたこ  
とが出来ないことが多くなってい  
ます。そのことを否定的にとらえ  
るのではなくその状況に合わせて  
対応していくことも長い人生にお  
いて必要なことと思います。  
今回のコロナ禍の状況の中で、  
ソーシャルディスタンスという言葉  
葉が盛んに使われるようになりま  
した。単に物理的な距離だけでは  
なく、学生たちは学校関係・家  
族・社会的な人々との関わり合い  
を考えるきっかけになったのでは  
ないでしょうか。  
今まで人類は数多くの感染症を  
乗り越えてきました。今回のコロ  
ナウイルスについても必ず乗り越  
えることと思っています。本年も  
どうぞ宜しくお願いします。